

輸出事業計画

※申請者名：ジャパンフルーツ株式会社、品目：いちご

1. 輸出における現状と課題

【現状】

日本において、いちごの作付面積は減少傾向にあるが、いちごの輸出実績は年々増加している。2023年は輸出額61.6億円（前年比+17.6%）となり、特にその輸出額の多くを香港と台湾が占め、輸出総額の85%が香港および台湾へと輸出されている。また、その大部分は香港に向けて輸出されており、台湾に向けた輸出においては残留農薬規制をクリアすることのできる生産者を増やすことが今後の輸出拡大において肝要である。

【課題】

<生産>

・台湾の残留農薬規制に対応した栽培方法、ノウハウを持つ生産者数がボトルネックとなっているため、ノウハウの提供などを通じて輸出向けいちごを生産する農家数を増やす必要がある

<物流>

・新たに輸出に取り組む生産者が小ロットから輸出を開始するのに適した輸送手段を輸送手段を検証し明らかにする必要がある
・海外の需要に合わせ適期に出荷を行うにあたり、長期的に品質を維持できる貯蔵方法を検討する必要がある

<販売>

・輸送中の品質劣化を防ぎながら、現地のインポーター、消費者に訴求できる梱包資材、パッケージを模索する必要がある

2. 輸出事業計画の取組内容

<生産>

ジャパンフルーツ株式会社では協議会構成員である株式会社おさぜん農園よりアドバイスを受けながら台湾の残留農薬規制に対応したいちご生産の実証を進めてきた。これまでの取組の中で規制をクリアできる農薬使用ノウハウの道筋を見出しており、このノウハウを新たに輸出に取り組む生産者に提供することで、輸出に取り組む生産者を増加させることを目指す。

<物流>

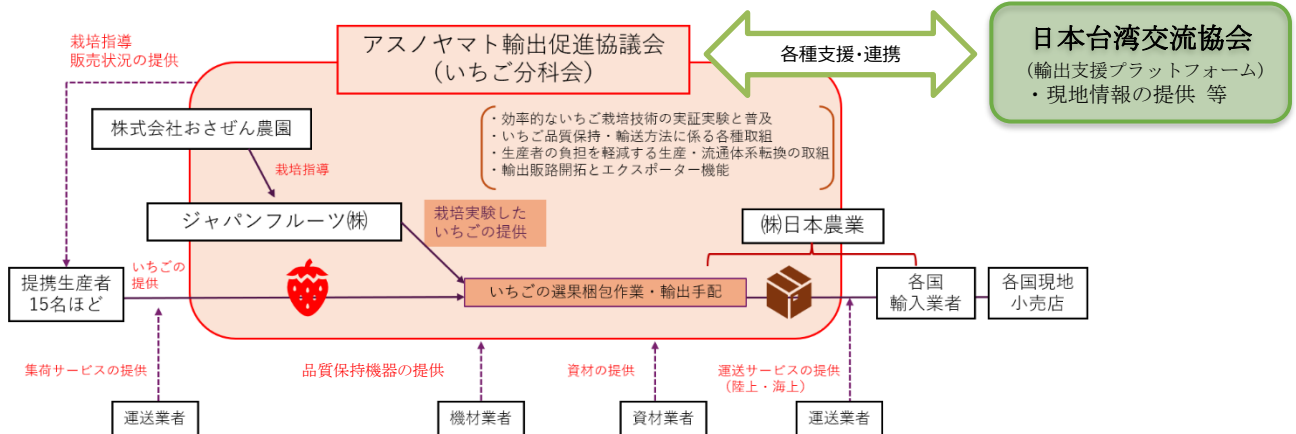
生産分野での取組によって増加した輸出に取り組む生産者の元から輸出を行う物流網の構築において、最適な陸上輸送手段の検証を行い、車両ごとのコスト及びロス率から最適な国内輸送手段を選定する。

また、出荷までの間に一時的な貯蔵を行う場合の品質保持期間延長の実証実験を実施する。実証実験には一般的な貯蔵設備である冷蔵庫に加え、品質保持機器を実験的に導入し、いちごの鮮度保持においても有効であるか検証を行う。

<販売>

緩衝効果が期待できる輸出用向け資材の活用と日本産であることが一目でわかるパッケージを作成し、現地での高単価販売を目指す。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

	現状（令和5年度）	目標年（令和7年度）	備考
輸出額(千円)	15,700	75,400	
輸出量 (ton)	3.4	16.5	
輸出先国	台湾、タイ	台湾、香港、タイ、シンガポール	
取扱量 (ton)	3.4	16.5	